

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100665		
法人名	有限会社 千寿園		
事業所名	グループホーム 長寿の里		
所在地	佐賀県佐賀市北川副町大字光法1593-1 (電話) 0952-41-6667		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224-2		
訪問調査日	平成 19年10月11日	評価確定日	平成 19年11月11日

【情報提供票より】(平成 19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 4.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 70 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武藤医院 内田クリニック 高森歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い道路に面しているが、駐車場も広く室内は静かで明るい雰囲気グループホームである。店舗を改築した建物であるが、全く違和感を感じさせない造りとなっており、季節の花や野菜が育てられ、入居者が楽しくゆっくり生活できるよう配慮されているのが感じられた。法人の「千寿園」の理念とは別に、『一緒に、ゆっくり楽しく』『残された力で暮らしの喜びと自信を見出す』『「してあげる」ケアから、「一緒に過ごす」ケアを』といった、長寿の里独自の理念が作りあげられていた。そして、管理者と職員が一体となり、入居者一人ひとりが尊重されるよう、よりよいケアの提供のために取り組まれていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の結果をいかして、全体で改善に向け取り組まれていた。他の同一法人内事業所と共に、定期的にテーマを決め内部研修が実施され、希望すれば外部研修を受ける機会も設けられていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を自己を見直すよい機会と取らえ、職員全体で取り組まれていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの行事や入居者の日々の暮らしなどが報告されている。会議内で、自治会長よりホーム近くに地域の花畑が作られるとの情報を得、花畑づくりにホームの入居者も参加の予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に「長寿だより」を発行し、行事や入居者の日常の生活が家族に報告されている。また、苦情・意見箱を設置すると共に、面会や電話連絡のみに、できるだけ要望や意見を聞き取るよう努められていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	定期的な消防訓練は行なわれていたが、設備会社の参加のみで、消防署や地域の方の参加はなかった。訓練等の行事に参加することで、地域との協力体制が整えられる面もあり、日頃より協力を得られるような体制づくりが望まれる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体の掲げる理念とは別に、『一緒に、ゆっくり楽しく』『残された力で暮らしの喜びと自信を見出す』『「してあげる」ケアから、「一緒に過ごす」ケアを』といった、長寿の里独自の理念が作りあげられていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所とリビングに掲示されており、管理者と職員は日々その実践に向け取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に自治会長へ声かけをし、地域行事、ホーム行事の案内は相互に出されているものの、まだ参加にはいたっていなかった。	○	商業地の中に立地し、環境的に困難な面もあるが、老人会や地域行事に積極的に参加していきたいという、職員一同の思いの実現に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自己を見直す機会ととらえ、職員一同で取り組まれていた。また、評価の結果をいかして、全体で改善に向け取り組まれていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの行事や入居者の日々の暮らしぶりが報告されていた。会議内で、自治会長よりホーム近くに地域の花畑が作られるとの情報を得、花畑作りにはホームの入居者も参加の予定であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県の新人研修の受け入れは実施されていた。市からの研修等の依頼があれば、いつでも対応できる体制はとられており、市との連携の重要性は十分に理解されていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「長寿だより」が毎月発行され、行事や職員の異動の報告に加え、入居者の暮らしぶりや日常の様子が具体的に担当者から伝えられていた。預かり金の明細についても、毎月報告確認がなされていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置するとともに、面会や電話連絡のおりに、できるだけ要望や意見を聞き取るよう努められ、意見は検討し運営に反映されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等については、事前に伝えるなどして、入居者が不穏になる事がないよう配慮され、長寿だよりでも報告されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の同一法人内事業所と共に、定期的にテーマを決め内部研修が実施されていた。また、希望すれば外部研修を受ける機会も設けられていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内との交流はあるものの、地域の同業者との交流は図られていなかった。	○	サービスの質の向上のためにも、同業者との交流の大切さは管理者も理解しておられる。運営者を中心に、今後交流の場を定期的に設け、ネットワークづくりに努められる事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験等の受け入れは可能であり、事前に入居予定者宅を訪問し、本人や家族の思いを十分に聞き取られていた。入居されてからも、こまめに声かけを行うなど、独りにしない努力をされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の野菜の栽培など入居者から学んだり、共に育てる事で楽しみながら支えあう関係づくりが、日頃より築かれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のこれまでの暮らしを尊重し、家族からの情報も得ながら、日頃の関わりの中で、一人ひとりが希望する生活の把握に努められていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人と家族の思いや希望を聞き取り、職員の意見もふまえ、介護計画が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しとは別に状態に変化があった場合は、その都度本人や家族から希望を聞き見直しが行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、通院介助、役所への外出支援、預金の引き出しなど柔軟に対応されていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医のもとでの受診を基本とし、希望されればご家族も交え面談のうえ、協力医への変更も可能であった。医師の指示についても、職員が周知できるよう申し送りを徹底されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた指針が作成され、家族の意向を聞き取り、主治医とも話し合いのうえ、対応についての同意書がとられていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーやプライドを大切にした支援に努められていた。また、記録等の個人情報は事務所で管理され、取り扱いには十分配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活パターンを把握し、一人ひとりの思いや状態を考慮しながら、その人らしい暮らしを支援されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間もゆつくりとられ、豆むき、ゴマすり、台拭きなど食事の準備から片づけまで、状態や状況に応じ職員と一緒に楽しまれていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や季節に応じて入浴時間が決められているが、要望があればいつでも入浴が楽しめるように支援されていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、プランターでの園芸、食事の下ごしらえ等、一人ひとりの役割りや楽しみごとを活かした場面作りが行われていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候、入居者の要望に応じて、花見やドライブ、買い物、散歩、外食の機会が設けられるなど、積極的な外出支援が行われていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	センサーを利用するなど日中の施錠はされていなかった。危険回避など止むを得ない場合は、家族の了解のもとで施錠されていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防訓練は行われていたが、設備会社の参加のみで、消防署や地域の方の参加はなかった。	○	訓練等の行事に参加することで、地域との協力体制が整えられる面もあり、日頃より協力を得られるような体制づくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取状態については記録がとられ、季節の物を中心に、入居者一人ひとりの状態に応じた調理・盛り付けの工夫がなされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やホームでの行事の写真が飾られ、全体が明るく広々としており、入居者がゆっくり居心地良く過ごせる空間作りに努められていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台やダンス等が持ち込まれ、花や家族の写真が飾られるなど、入居者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮されていた。		